



鶴岡アートフォーラムで「夢」を展示

美術・デザイン系列の生徒たちが作品を展示。

鶴中央高美術デザイン系列展



コロナによる休校中の課題として、生徒たちが過ごした自粛中の日常風景などを切り取り、写真にした



アマビエをかたどったクラフト作品など、生徒の個性が光る展示会場

鶴岡中央高校（遠田達浩校長）総合学科の美術・デザイン系列で学ぶ生徒たちによる作品展が鶴岡市の鶴岡アートフォーラムで始まった。展示テーマは「夢」。新型コロナウイルスによる休校中の自宅での課題や授業での取り組みの集大成となる力作が並ぶ。会期は31

「夢」テーマに多彩な作品 感性伝える

自粛中の日常風景 写真に「コロナ時代」問題解決へポスター

鶴岡中央高校（遠田達浩校長）総合学科の美術・デザイン系列で学ぶ生徒たちによる作品展が鶴岡市の鶴岡アートフォーラムで始まった。展示テーマは「夢」。新型コロナウイルスによる休校中の自宅での課題や授業での取り組みの集大成となる力作が並ぶ。会期は31日までと、2月4〜7日まで。作品展は同系列の活動や作品を紹介しようと、生徒が主体となって毎年開催している。17回目の今回は同系列の2年生13人、3年生19人と、他系列の生徒による作品を合わせて約300点を展示。ビジュアルデザイン、写真、陶器、同校を紹介する映像やパンフレットの表現などの形に表現した。このうちポスター制作では、「コロナ時代に生きる私たちがコロナウイルス感染症に関する諸問題解決のためのポスター制作」と題し、コロナの感染拡大による影響で起る問題点に着目。休校中、生徒がニュースやSNSなどで調べたりしたコロナに関する問題点をイラストや文字にし、コロナのデマ情報拡散、SNSでの誹謗中傷、献血不足、自衛警察の行き過ぎた言動、コロナに便乗した詐欺などを取り上げ、来場者に訴え掛けた。

指導者の一人である同校の工藤千代教員は「生徒一人一人の感性が作品からにじみ出ているので、ぜひ感じ取ってもらえれば」と話している。

荘内日報

掲載：令和3年1月31日

